

えんど久子県議らが県議会で求めてきた

保健所の保健師さらに増員されます

保健師と事務18人増員

猿渡（えんど）久子県議ら日本共産党は、一般質問や決算特別委員会などで、コロナ対応で多忙な保健所の正規職員の増員を強く求めてきました。

新年度から保健所の職員が計5名増員されることになりました。今年度も13名（内保健師4名）増員しており、2年間で9カ所（6保健所＋3保健部）に保健師と事務職員（ともに正規）を各1名ずつ計18名を増やします。

市の保健師も応援

また、えんど久子県議は9月の県議会で、クラスター発生時の保健所業務の支援体制として市町村の保健師の協力を求めてはどうかと提案。

その後、県は11月30日、新型コロナウイルス感染が急拡大した際に職員を派遣してもらおうため、17市町村と協定を結び、協力を得る体制を作りました。

再編統合で人数減

しかし、2008年度の保健所の再編統合前に比べて今年度の保健師は5人増、医師等は36人減、事務は7人減です。12月3日の県議会一般質問で、堤栄三県議は「保健所職員だけでなく、県職員全体の増員が緊急対応のためにも必要」と指摘し増員を求めました。今後ともがんばります。



一般質問で保健所職員の増員やPCR検査の拡充などを求めるえんど久子県議

21. 9. 17. 大分県議会

旧年中は大変お世話になりました。今後ともみなさんの声を届けてがんばります。

ご意見ご要望お困りごとなどありましたら、お気軽に声をかけて下さい。

えんど久子

日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団
大分県議会議員 えんど久子

No.56

TEL・FAX 097-537-2344 2021.12.26.

えんど久子のホームページはっぴーえんど・どっとねつとをぜひご覧ください

自交総連と一緒に求めてきた

バス・タクシーへの

助成が実現

7月に「雇用を守るために」と要望

7月26日、タクシー労働者の組合である自交総連の皆さんが、大分県に対し「コロナ禍から県内タクシーの倒産を防ぎ労働者の雇用を守るための要望書」を提出。日本共産党のえんど久子県議（別府市選出）と堤栄三県議（大分市選出）が同席しました。

「タクシー事業者も経営が大変で、倒産を防ぎ雇用を守るために支援策の拡充をお願いしたい」などと、深刻な状況を訴えました。

タクシー1台あたり10万円の助成

この声が県を動かし、12月の県議会に補正予算として、約5億2千万円が上程されました。

これは、地域の公共交通の運行継続のために、車両の維持や感染症防止対策のための経費に助成するものです。

タクシー1台当たり10万円。乗り合いバス1台30万円、貸し切りバス1台15万円の助成が出る他、防護スクリーン設置や消毒等への助成もあります。関係者は「経営の厳しいタクシー会社にとって1台10万円の補助は助かる。要望を行ってよかったです」と語っていました。



県の商工観光労働部長に要望書を手渡す自交総連のみなさん。
左端がえんど久子県議。 2021. 7. 26.

ケアの職場

本気で処遇改善を

介護・保育士・障害者福祉などへの月9000円程度、医療スタッフなどへの月4000円程度の処遇改善について、えんど久子県議は「ケアが足りない。賃金が低いことで質に影響しているとの声を聞く。国に報酬改定による本格的な賃金アップを強く要望すべきだ」と重ねて求めました。

えんど久子県議は、コロナの慰労金は代表者にはなく残念だったという声も紹介し、「この処遇改善は代表者にもあるのか」と質問。対象者はまだはつきりしないとのことですが、「巾広く対象になるように国に要望してほしい」と求めました。

今後とも、みなさんと力をあわせてがんばります。

